

令和 6 年度予算審査特別委員会報告書

令和 6 年 3 月 2 1 日

大山町議会議長 米 本 隆 記 様

令和 6 年度予算審査特別委員会

委員長 門脇 輝明

(公印省略)

令和 6 年 3 月 1 日、令和 6 年第 2 回大山町議会定例会において設置された議員全員による、令和 6 年度予算審査特別委員会に付託された、令和 6 年度一般会計及び各特別会計議案について審査したので、会議規則第 77 条の規定により下記の通り報告します。

記

1. 事件名

- 議案第 20 号 令和 6 年度大山町一般会計予算
- 議案第 21 号 令和 6 年度大山町土地取得特別会計予算
- 議案第 22 号 令和 6 年度大山町開拓専用水道特別会計予算
- 議案第 23 号 令和 6 年度大山町国民健康保険特別会計予算
- 議案第 24 号 令和 6 年度大山町国民健康保険診療所特別会計予算
- 議案第 25 号 令和 6 年度大山町後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第 26 号 令和 6 年度大山町介護保険特別会計予算
- 議案第 27 号 令和 6 年度大山町風力発電事業特別会計予算
- 議案第 28 号 令和 6 年度大山町温泉事業特別会計予算
- 議案第 29 号 令和 6 年度大山町宅地造成事業特別会計予算
- 議案第 30 号 令和 6 年度大山町索道事業特別会計予算
- 議案第 31 号 令和 6 年度大山町下水道事業会計予算
- 議案第 32 号 令和 6 年度大山町水道事業会計予算

2. 審査の経過および審査の結果

付託を受けた 13 議案について、分科会方式で令和 6 年 3 月 4 日から 12 日までの 7 日間審査を行うとともに、3 月 18 日に委員全員で審査を行った。

審査の結果、付託された 13 議案すべてを可とすべきものと決した。

3. 令和 6 年度予算審査の概要

令和 6 年度大山町一般会計予算

一般会計予算は、総額 114 億 6,000 万円で、令和 5 年度当初と比較すると 2 億 4,000 万円の増（2.1%増）となっている。

以下、予算審査のなかで主に議論となった事業を挙げていく。

【総合戦略課】

令和 6 年度から始まる総合計画の見直しでは、住民参加のプロセスを省略する方針に対して、議員の中から疑問を持つ声があり、基本理念「楽しさ自給率の高いまちへ」の更なる推進と住民との対話の重要性が議論された。地域活性化起業人制度の活用についても、その効果の可視化が課題として挙げられた。外部人材育成支援については、目標として掲げられている起業件数に結び付く事業設計が求められた。

【企画課】

デマンドバス事業において、新年度から開始予定の 100 円運行の実証実験について、運賃を低価格に設定することで利用者が急増し、交通弱者が利用できなくなる恐れがあるという問題が指摘された。そのため、実験の結果を踏まえて運賃の見直しが必要であるとの意見が議論された。また、ドライバー不足などを理由とした委託料の急激な増加を受け、持続可能な運営を実現するために、町外事業者も含めた幅広い調査を行い、運営方法を検討する必要があるとの議論がなされた。

【観光課】

観光分野では、ドリームカーフェスタ、アウトドアイベントやサイクルツーリズムの推進など、観光事業全般にわたる目的と目標の不明確さが指摘され、事業計画の明確化と成果測定の方法についての見直しが求められた。

【農林水産課】

農林水産業では、森林環境譲与税の運用の改善や、ジビエレザリー事業の目的の再検討、海岸施設保全事業に対する対応などが議論のテーマとなった。特に、ジビエレザリー事業については、その目的と効果をどのように地域に還元するかについて詳細な検討が求められた。

【住民課】

新規事業、アダプトプログラムには、地域美化と環境保全を目指した住民参加の促進に向けた事業案が示され、具体的な支援策や住民の動機づけについての説明を受けた。

【福祉介護課】

福祉介護分野では、重層的支援体制が議論された。この体制は、介護、障害、子ども、生活困窮者への各分野の相談支援を幅広く受け止め、課題解決に向けた関係機関への連携を行うものである。事業名が専門的過ぎるため、より住民にわかりやすく親しみやすい名称への変更などが議論された。

【社会教育課・こども課】

公民館リニューアルプロジェクトや放課後児童クラブの運営改善提案は、地域コミュニティの活性化や子どもたちの教育環境の向上に貢献するとして、具体的な取り組み方や改善策について詳細な意見交換が行われた。放課後児童クラブでは、子どもたちが安全にかつ充実した時間を過ごせるよう、施設の設備や運営体制の見直しが提案された。

このように、一般会計予算の審査を通じて、住民生活の質の向上、町の持続可能な発展、教育や福祉の充実を目指す様々な分野での具体的な改善策や新しい取り組みの必要性が強調された。それぞれの課題に対して、住民との更なる協働や対話の場の設定が重要視された。

各特別会計については、以下の通りである。

令和 6 年度大山町土地取得特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町開拓専用水道特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町国民健康保険特別会計予算

総額は、19 億 6428 万円で前年度比 1 億 9755 万円の減となっている。近年、単年度収支において赤字が続いていたが、令和 6 年度は県への納付金が約 7221 万円減少したことから、収支が大幅に改善された。国保事業給付金が減少した理由は、県全体の被保険者数の減少により予想される医療費総額が下がったこと、さらに大山町における医療費指数、被保険者数、所得の減少が給付金の減算率の増加に繋がったためである。

令和 6 年度大山町国民健康保険診療所特別会計予算

総額は、3 億 3529 万円で前年度比 457 万円の減となっている。新規事業として企業版ふるさと納税を活用し、「診療所医師の負担軽減」を目的に寄付金を一般会計から診療所特別会計へ繰り出す計画の説明を受けた。この資金は、診療所職員の研修や他市の国保診療所への視察研修に充てられ、医師の働き方の多様性や応援体制の確保に関する情報収集が期待される。

名和診療所では町長と意見交換会を実施し、利用者意識調査を行う予定であることを確認した。大山診療所は令和 4 年度に約 800 万円の赤字を記録したが、収益追求よりも運営の質を重視する意見が出された。令和 5 年度の診療報酬収入見込みが令和 4 年度実績を下回るにも関わらず、令和 6 年度の収入見込みが高く設定されている点について、歳入見込みが過度に見込まれている可能性が指摘された。

令和 6 年度大山町後期高齢者医療特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町介護保険特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町風力発電事業特別員絵予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町温泉事業特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町宅地造成事業特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町索道事業特別会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町下水道事業会計予算

(特記事項なし)

令和 6 年度大山町水道事業会計予算

(特記事項なし)

付帯意見

1. 財政調整基金から3億9000万円もの取り崩しを織り込んだ予算案が提出されている。財政調整基金は、自治体の財政が予期せぬ事態に直面した際、たとえば収入が見込みより少なくなった場合や、急に大きな支出が必要になった場合に備えて確保されている基金である。本来、緊急時に限って使用されるべきであるにもかかわらず、当初予算において大幅な取り崩しが計上されている。自治体財政に余裕がないことを示しており、今後提出される補正予算、特に大型予算案に対して、厳格な審査が求められる。
2. 特に観光分野などにおいて、目的や目標の明確化が不足しており、成果が十分に上がっていない状況が多く見られる。事業の目指すべき成果を明確に定義し、実行にあたる職員が正確に認識していることが必要である。また、町民に対しても、事業内容を理解し、共有する機会を設けることが求められる。
3. 少子化や若者の非結婚化は、経済的な問題だけでなく、結婚生活に対するネガティブなイメージが原因の一つとして挙げられている。この根本的な解決を目指すために、男女共同参画や女性リーダーの育成を求める意見が議会において多数あるが、新年度予算ではこれらの取り組みに対する計上が乏しい。予算の投入だけが解決策とは言えないが、人口減少に直面する本町として、短期的施策だけではなく、根本的な解決策にも予算を割り当て、問題解決に取り組むことが必要である。

以上